

7.2.6 景観

1) 囲繞景観

G、H、N-1 地区における工事前の囲繞景観は、平成 17 年と平成 28 年に調査が行われており、その間の囲繞景観の変化としては植生の生長が見られた程度の僅かなものであった。平成 29 年度は存在・供用時(G 進入路は工事中が一部含まれる)の事後調査として実施しており、工事前との比較には平成 28 年の結果を用いた。G、H、N-1 地区の工事前(平成 28 年)と平成 29 年度の最終調査回(冬季調査)における眺めの状況を図 7.2.6-1～図 7.2.6-6 に示した。

G、H、N-1 地区の工事前調査との比較では、事業実施区域である着陸帯及び G 進入路についてイタジイ-リュウキュウチク景観区から裸地路傍草地景観区へと変化していた。そのほか、工事用道路では既存道路景観区やイタジイ-リュウキュウチク景観区から裸地路傍草地景観区へ、H 地区付近の作業ヤードでは路傍草地から裸地へと変化していた。これらの景観区の変化により、眺めの状況は大きく変化しており、今後の状況についても注視する必要があるものと考えられる。

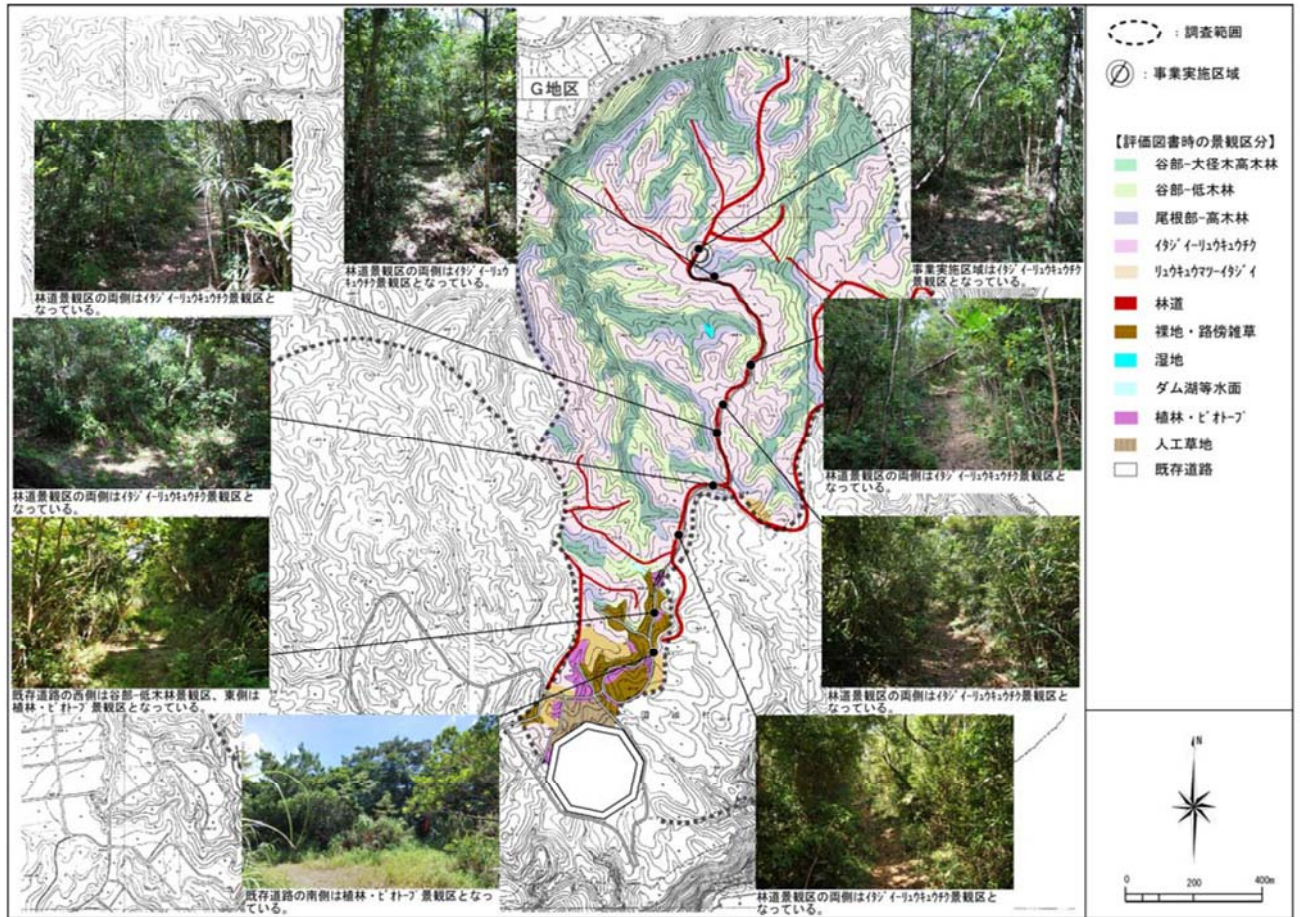


図 7.2.6-1 G 地区における眺めの状況 (平成 28 年)

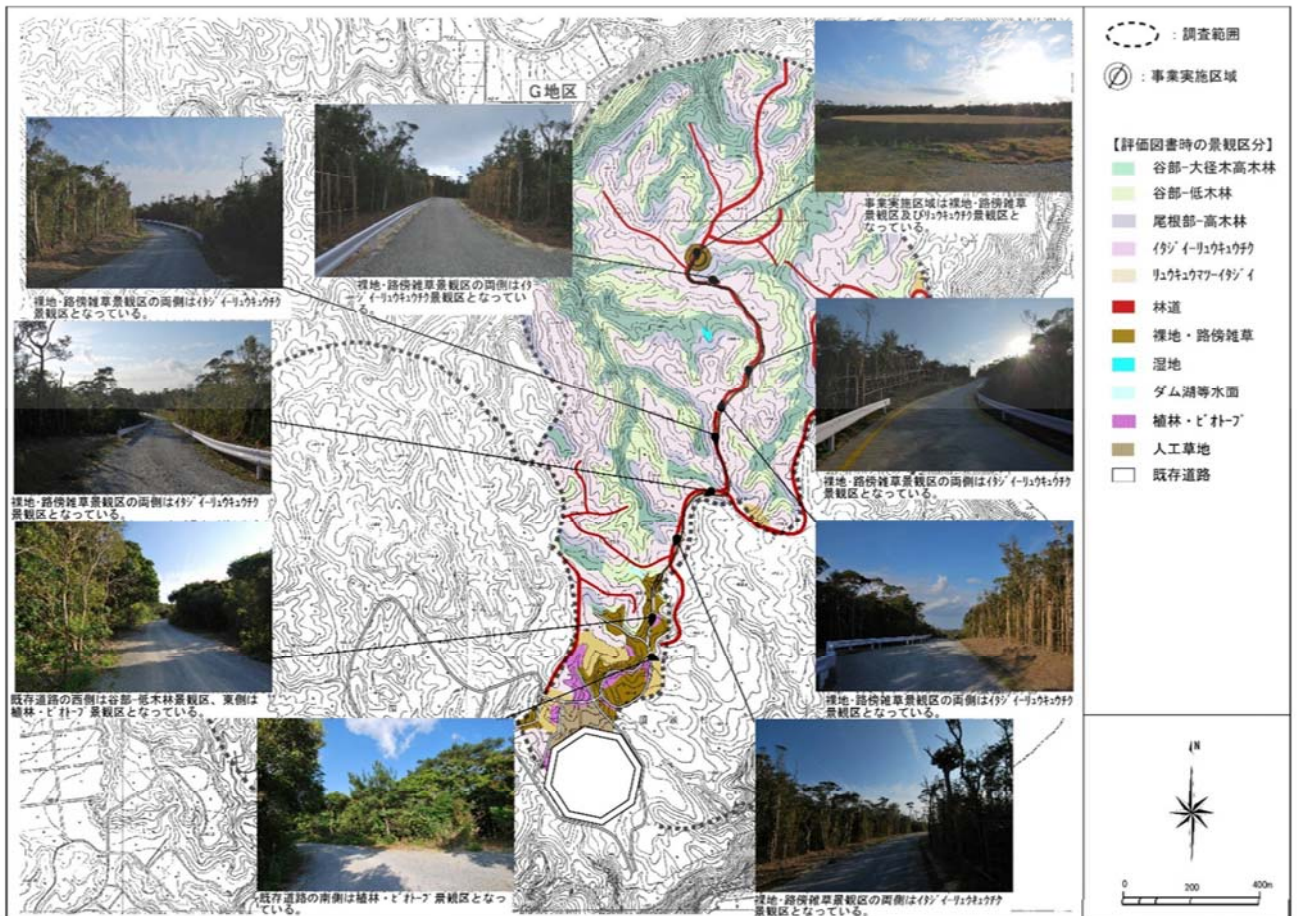


図 7.2.6-2 G 地区における眺めの状況 (平成 29 年度：冬季)



図 7.2.6-3 H 地区における眺めの状況（平成 28 年）

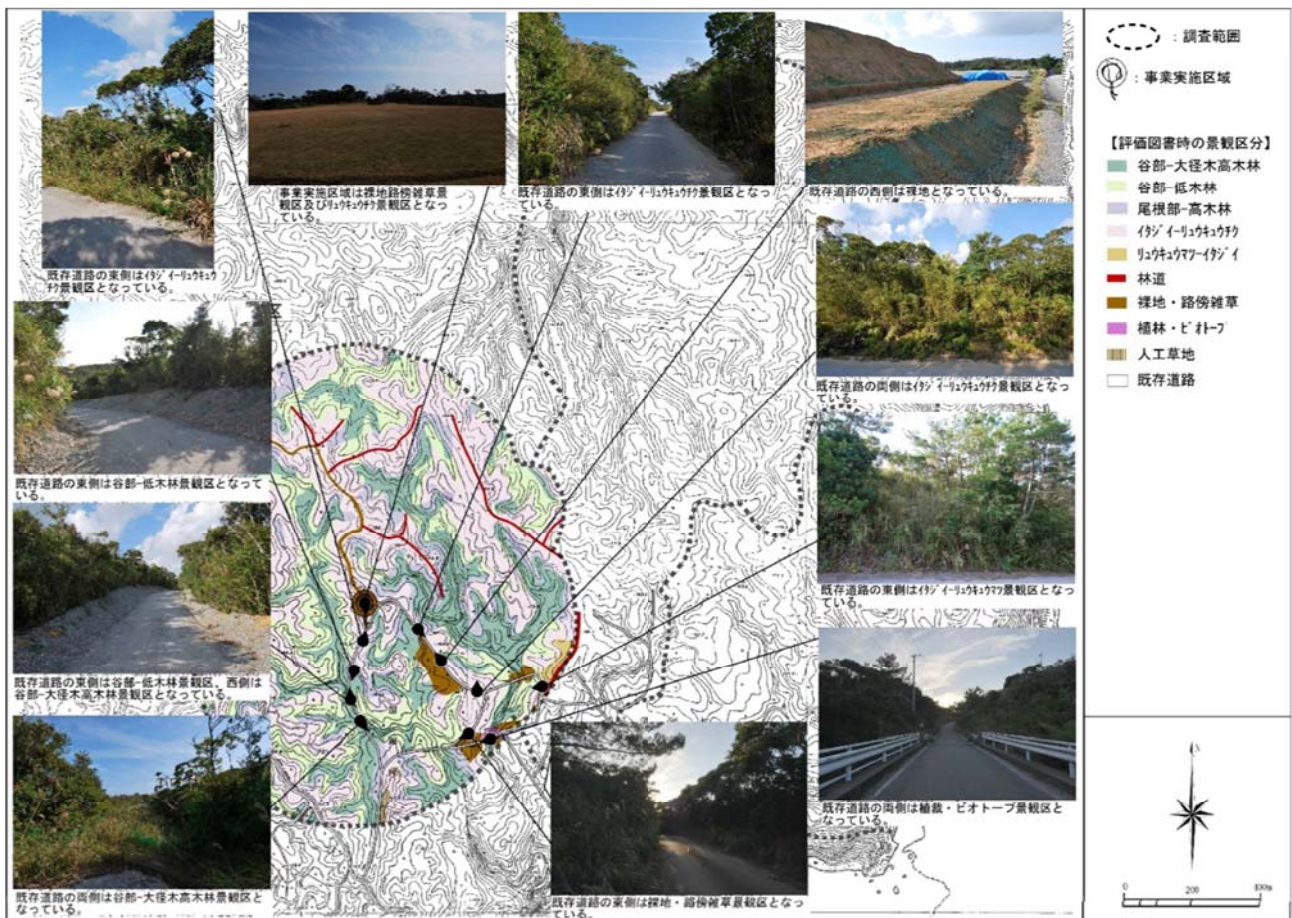


図 7.2.6-4 H 地区における眺めの状況（平成 29 年度：冬季）

N-4 地区における工事前の圍繞景観は、平成 17 年と平成 23 年に調査が行われており、その間の圍繞景観の変化としては植生の生長が見られた程度の僅かなものであった。

N-4 地区における着陸帯の整備は、N-4.1 が平成 24 年、N-4.2 が平成 26 年に完成し、平成 27 年より供用が開始されている。存在・供用時の事後調査は、存在時の事後調査を含めると、平成 25 年、平成 26 年及び平成 27 年の 3 年間が行われている。平成 29 年度調査は 4 年目となり、工事前との比較には工事前及び平成 25～27 年までの結果を用いた。N-4 地区の工事前から存在・供用時にかかる眺めの状況を図 7.2.6-7～図 7.2.6-11 に示した。

工事前調査との比較では、事業実施区域である着陸帯及び進入路の一部についてリュウキュウマツ景観区から裸地路傍草地景観区へと変化していた。着陸帯完成後については景観区の変化はなく、眺めの状況は殆ど変化なく安定していた。



図 7.2.6-7 N-4 地区における眺めの状況（平成 23 年度）

